

行政視察報告

委員会名	総務委員会
視察日	令和元年5月8日(水)
視察先	岡山県倉敷市
視察委員	安西俊一 委員長 小山たつや 副委員長 秋家聡明 委員 伊藤よしのり 委員 工藤きくじ 委員 黒柳じょうじ 委員 かわごえ誠一 委員 三小田准一 委員 小林ひとし 委員 立花孝志 委員
調査項目	観光振興策について／倉敷美観地区について
事業概要	観光客数の減少・「通過型」観光地の解消に向けた、広域的な観光ルートの開発・各地のイベントや祭りの再編、新たなイベントの実施、観光資源化の推進などの取り組みを視察した。また、全国からの誘客を図るため、関係団体との協力のもとで実施している、特色ある観光事業や周年記念に合わせた事業を視察した。
視察内容	<p>倉敷市観光振興策の概要</p> <p>1 倉敷市観光振興プログラムの策定 <計画期間> 平成28年度から32年度までの5年間 <基本施策> 何度も訪れたい倉敷の実現(倉敷ファンの獲得) <施策の展開の方向性> 倉敷市の魅力をさらに磨き上げ、積極的に発信し、国内外の観光客誘致を推進させる。</p> <p>2 倉敷市の観光の現状と課題 観光客数は横ばい、遠距離来訪者が少ない、滞在時間は短い。欧米圏からの宿泊者数が減少来訪者の満足度・平均消費額が全地域平均より低い。 など</p> <p>3 具体的取り組み 倉敷市は関西・中国四国からのアクセスがよいことから、周辺都市と一体での観光行動が多い。観光ルートの創出として、高梁川流域県内の特徴的な観光資源を組み合わせた広域観光ルートと周辺都市広域連携として瀬戸内4都市や岡山市との協議会の設置、電車(井原線、伯備線)関係との事業などがある。特色ある観光事業として、美観地区の夜間景観照明を行っている。美観地区は日本遺産に認定されており、観光資源としても活用している。イベントは、実行委員会形式で行っている。主に(公社)倉敷観光コンベンションビューローや倉敷商工会議所などが主体となって担うイベントが多い。</p>
主な質疑内容	<p>(問) これだけの日本遺産がたくさんあり、それが個人の所有物である以上、改修などは難しいと思うが、補助金の方向性について伺う。</p> <p>(答) 改修の際には一定の要件がある。今ある形であることが条例でも定まっている。改修に係る費用の一部補助がある。</p> <p>(問) 倉敷市の伝統美観保存条例は都市整備で街並みにいろいろな規制をかけるものと思う。それと観光を結び付けていくとき、どのように取り組んでいるのか。</p> <p>(答) 電柱の地中化や、色の問題で、普通の自動販売機の色ではなく美観地区に合う色にしてほしいといったお願いをしている。</p> <p>(問) 海外の観光客が増えていると思うが、受け入れの環境の充実ということで、Wi-Fiの整備や、その観光情報を提供する場合の多言語化への取り組みを伺う。</p> <p>(答) パンフレットなどは紙媒体のものとウェブ上の対応をしており、英語・韓国語・タイ語・フランス語版などがある。インバウンドでは看板を多言語化したら上限50万円で半額補助金を出している。</p> <p>(問) 近隣市もいろいろな文化財があり周辺市との連携も重要だと言われているが、どのようなことを行っていますか。</p> <p>(答) 協議会形式でいろいろなイベントを行っている。一緒にPR活動をしましようというものもある。例えば、伯備線沿線だと電車を使ったイベントをしようとか、井原線に乗ってもらう人を増やす目的で、いろいろな駅で降りてもらおうと、乗車券が格安の時期を設定し、その日は乗り放題にして各駅ではイベントを行い、いろいろな振る舞いを楽しんでいただくということを行っている。</p>

行政視察報告

委員会名	総務委員会												
視察日	令和元年5月9日(木)												
視察先	愛媛県松山市												
視察委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">安西俊一 委員長</td> <td style="width: 33%;">小山たつや 副委員長</td> <td style="width: 33%;">秋家聡明 委員</td> </tr> <tr> <td>伊藤よしのり 委員</td> <td>工藤きくじ 委員</td> <td>黒柳じょうじ 委員</td> </tr> <tr> <td>かわごえ誠一 委員</td> <td>三小田准一 委員</td> <td>小林ひとし 委員</td> </tr> <tr> <td>立花孝志 委員</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	安西俊一 委員長	小山たつや 副委員長	秋家聡明 委員	伊藤よしのり 委員	工藤きくじ 委員	黒柳じょうじ 委員	かわごえ誠一 委員	三小田准一 委員	小林ひとし 委員	立花孝志 委員		
安西俊一 委員長	小山たつや 副委員長	秋家聡明 委員											
伊藤よしのり 委員	工藤きくじ 委員	黒柳じょうじ 委員											
かわごえ誠一 委員	三小田准一 委員	小林ひとし 委員											
立花孝志 委員													
調査項目	松山圏域未来共創ビジョン												
事業概要	<p>本ビジョンは、人口減少・少子高齢社会であっても、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるよう、中心都市である松山市が近隣市町と連携中枢都市圏を形成し、「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」に取り組むため、様々な主体の共通指針として策定された。圏域の目指す将来像との実現に向けた具体的取り組みなどについて視察した。</p>												
視察内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 松山圏域未来共創ビジョンの策定と計画期間 平成28年7月(平成30年3月改訂)・平成28年度から平成32年度の5年間 2 松山圏域とは 松山市と伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町が形成した連携中枢都市圏。 3 分野における基本方針と具体的取り組み <ol style="list-style-type: none"> <第1分野・圏域全体の経済成長のけん引> ○中小企業商談力向上支援、広域観光連携推進協議会による観光戦略展開 その他10の取り組み <第2分野・高次の都市機能の集積・強化> ○松山外環線の延伸、松山アーバンデザインスクール その他8の取り組み <第3分野・圏域全体の生活関連機能サービスの向上> ○救急ワークステーションの活用、病児・病後児保育、保育を必要とする子どもの広域受け入れ、出会いイベント等による婚活支援事業の連携・共同実施、圏域を一体化するプロスポーツ支援、松山圏域図書館の連携 その他26の取り組み 4 大学との連携 多様な地域課題に対応するため、市内の大学・短期大学と連携協定を締結している。 ○愛媛大学、松山大学、聖カタリナ大学、松山東雲女子大学、松山短期大学、聖カタリナ大学短期大学部、松山東雲短期大学) 												
主な質疑内容	<p>(問) 学生消防団員と防災士についての取り組みを伺う。 (答) 全国のもので、試験を受けて防災士認定を受けた防災士である。講習は各大学のカリキュラムなので受講料は無料である。防災士数日本一を目指している。</p> <p>(問) アーバンデザインセンターのほかに、どのような連携の取り組みがあるのか。 (答) 貧困対策として土曜塾の実施、観光に関する検定の大学独自作成、全国初として大学生に選挙コンシェルジュになってもらうと同時に、キャンパス内に期日前投票所を開設している。</p> <p>(問) 大学への研究依頼はされているのか。 (答) 愛媛大学と松山大学等と連携し、ビッグデータを解析する取組みを行っている。</p> <p>(問) 域を超えての消防活動の、指揮系統はどのようになっているのか。 (答) 指令システムを改修中で、総務省の補助金を使い調査研究を行った。</p> <p>(問) 人口動向について伺う。 (答) 平成30年は一気にマイナスに転じた。市の合計特殊出生率は1.39人で全国平均より低く、晩婚晩産割合が高いようだ。また、若者の東京圏への流出が止まらず、戻ってこない状況である。</p> <p>(問) 計画の成果の検証はどのようにしているのか。 (答) 59それぞれの取り組みで成果は出ているが、中でも第3分野について、個別協定を結んでいることなどから総じて成果が上がっている。既存事業をうまく連携させることや、各市町が持っているシステムや事業について対象を広げたり結び付けたりすることで、比較的経費もかけずに取り組むことができている。一方で、一番肝心な人口対策に結びついていないことが課題である。</p>												